

増田四郎先生退任記念号に寄せる

増田四郎先生のご退任を記念して本誌の一号が編まれることになった。先生が「大学紛争」のさなか一橋大学長の職を辞して退官されてから凡そ半年ののち、懇望に応えこの学び舎の教壇に立たれたのが1970年4月のことであるから、私どもの同僚として過された期間は、同じく定年によって本学を去られた他の諸先生の場合とくらべて、比較的短いと言わねばならない。しかし本学教授としてのこの9年間、先生は教室において、研究室において、また会議の場において、消し難い印象を、あらゆる東経大人の頭と胸に刻みこまれたに相違ないのである。

増田四郎先生は三重県の上野中学校に、雨の日も雪の日も、峠を二つ上り下りして通いつめられたのち、笈を負うて東上、神田一ツ橋にあった商大の門をたたかれた。ヨーロッパ中世の社会経済史研究において右に出る者のない先生であるが、「ドクター・オブ・ザツガク」を自称されるように、学生時代はポケットにレクラム文庫版のドイツ理想主義哲学書をしのばせて日本経済史の研究室に出入りされ、やがて富山売薬業の史的研究を大学に提出して学問の道を歩み出されたのである。が、ここは先生の学問遍歴や学問態度を語る場所ではなく、また私にその資格も能力もないこと、申すまでもない。けれども、歴史を見る眼をさしあたり日本から西洋に転じられて以後今日に至るまで、変ることのなかったとみられる先生の学問の風格について、もし一言することが許されるとすれば、それは大地に足を踏まえた学風とでも言うことができようか。一方でそれは飽くなき実証の精神である。先生が西洋の歴史を研究される過程で、19世紀以来ヨーロッパの学界がつくり出した歴史把握にかんする様ざまな概念や図式に対して、根本的な疑問を提出してこられたのは、そうした精神の現れとみてよいであろう。これはいかにも実証史家の風格である。しかし他方、史料の曠野に行き倒れとなる危険に対して、鋭く警告を発してこられたのもまた先生であった。これは歴史認識における

増田四郎先生退任記念号に寄せる

主体的精神にはかなるまい。そしてこの主体性とあの 実証性とが相俟って、いかにも大地を踏みしめる趣の、先生ご自身の言葉を拝借すれば「土着」の学風が形づくられることになったと、このように私には思われるのである。近年とみに「近代ヨーロッパ」の「相対化」と「地域主義」の主張を打ち出されているのは、そうした学風に即してまことに自然である。

先生は過去、一橋大学において多くの管理職を歴任されたし、さらに日本における大学の設置や学術の振興、あるいは大学セミナーハウスの運営など、社会的＝文化的な活動にひろく関与されもした。しかし先生の本領は、むしろ研究とそして教育の実践にあったし、現にあるであろう。私は、上に触れたご研究上の「土着」の風格が、教育者としてのお仕事の上にも滲み出していると思うものであって、どこかの大学やどこかの学生を手本にそのミニチュア版をつくるなど、およそ先生の念頭にはなかったことだし、現にあるはずもないことだと考えている。東経大は東経大であるほかはなく、東経大生は東経大生であるほかはない。「土着」の歴史家の先生は、東経大の学生の個性をこよなく愛しておられ、学園としての東経大がその個性を明確に形づくることを強く望んでいられるように、私には見受けられる。せっかく本学の理事長にご就任いただいたことでもある。先生のご期待に背くようなことがあっては、東経大人として甚だ申し訳ない。この自戒によって、先生のご退任を記念する本号の発刊の辞を結びたい。

1979年10月31日

東京経済大学経済学部長 中 村 貞 二

増田四郎先生略年譜

ならびに著作目録抄*

略 年 譜

明治41年(1908年) 10月 2 日	奈良県山辺郡波多野村(現在山添村)に生まれる
大正15年(1926年) 3 月	三重県立上野中学校を卒業する
昭和 4 年(1929年) 3 月	東京商科大学付属商業教員養成所を卒業する
昭和 7 年(1932年) 3 月	東京商科大学を卒業する
4 月	東京商科大学研究科に入り昭和 9 年 3 月まで在学する
昭和13年(1938年) 3 月	東京商科大学付属商学専門部講師を嘱託される
昭和14年(1939年) 3 月29日	東京商科大学付属商学専門部教授に任ぜられる
昭和18年(1943年) 5 月	社会経済史学会理事となる
昭和20年(1945年) 2 月	東京産業大学予科教授に兼任される
12 月	本官を免ぜられ東京産業大学予科教授に任ぜられる
昭和24年(1949年) 6 月	一橋大学助教授兼一橋大学東京商科大学予科教授に任ぜられる

-
- * 1) 先生の略年譜の記事は、創文社刊の増田四郎先生古稀記念論集『ヨーロッパ-経済・社会・文化』(昭和54年3月)の巻末「略年譜」(佐々木克己教授作成)に全面的に依拠している。
- 2) 先生の著作目録抄の記事も、ごく一部の訂正を除いては、同じく同書巻末「著作目録抄」(同教授作成)に依拠するものであるが、そこでの著作の年代順の配列は、ここでは次の五つの項目に分類してなされている。

- I. 著書
- II. 論文・評論(学界展望・文献解説・追憶と随想などを含む)
- III. 書評・翻訳
- IV. 事典項目
- V. 編書

(昭和54年10月, 中村貞二)

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

- 昭和25年(1950年) 4月30日 一橋大学教授に昇任される
- 昭和31年(1956年) 3月1日 西洋経済史・西洋史研究のため西ドイツおよび
イタリアへ出張を命ぜられる
- 昭和32年(1957年) 3月 帰朝する
- 昭和34年(1959年) 7月21日 一橋大学より経済学博士の学位を授与される
(学位請求論文『西洋封建社会成立期の研究』)
- 昭和35年(1960年) 4月 一橋大学経済学部長に任ぜられる
- 昭和36年(1961年) 7月 一橋大学小平分校主事に任ぜられる
- 昭和38年(1963年) 7月 一橋大学小平分校主事の任期を更新される
- 昭和39年(1964年) 4月1日 一橋大学学長に昇任される。一橋大学経済学部
教授および社会学部教授に併任される
- 昭和41年(1966年) 5月 大学設置審議会委員に任命され昭和44年6月15
日まで在任する
- 12月 財団法人大学セミナーハウス理事長となる
- 昭和42年(1967年) 4月1日 大学長の任期を更新され経済学部教授に併任さ
れる
- 9月 文化功労者選考審査会委員, 昭和42年度および
昭和43年度文化勲章受賞者選考委員に任命され
る
- 昭和44年(1969年) 7月1日 一橋大学学長を辞し退官する
- 7月2日 一橋大学名誉教授の称号を授与される
- 昭和45年(1970年) 4月1日 東京経済大学教授となる
- 4月 財団法人大学セミナーハウス理事長を辞し大学
セミナーハウス館長となる
- 昭和46年(1971年) 1月12日 社会経済史学会代表理事となる
- 1月 東京経済大学理事となる
- 4月 共立女子学園理事となる
- 5月 大学セミナーハウス館長を辞す
- 昭和48年(1973年) 1月 社会経済史学会代表理事を辞し同学会顧問とな

る

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 月 | 国分寺市総合計画審議会会長を委嘱される |
| 昭和50年(1975年) 2 月 | 財団法人大学基準協会顧問を委嘱される |
| 9 月 | 日本学術振興会理事に任命される |
| 昭和51年(1976年) 9 月25日 | 地域主義集談会発足し発起人の一人となる |
| 昭和52年(1977年) 9 月 | 日本学術振興会理事に再任される |
| 昭和53年(1978年) 4 月15日 | 日本学術振興会会長に任命される |
| 7 月 | 国分寺市史編纂委員会委員を委嘱される |
| 12月15日 | 国立放送教育開発センター評議員に任命される |
| 昭和54年(1979年) 3 月31日 | 定年により東京経済大学教授の任を解かれる |
| 4 月 1 日 | 学校法人東京経済大学理事長となる |

東京商科大学，一橋大学，東京経済大学以外に非常勤講師あるいは兼任教授として出講した大学は次のとおり。

国学院大学，上智大学，学習院大学，九州大学文学部，東京大学経済学部，小樽商科大学，早稲田大学政治経済学部大学院，東北大学経済学部，中央大学経済学部，京都大学文学部，東京大学文学部，同大学院，慶應義塾大学大学院，東京女子大学，亜細亜大学

著 作 目 録

I. 著書

- 『独逸中世史の研究』日本評論社，昭和18年10月20日
『ヨーロッパ社会の誕生』啓示社，昭和24年1月10日
『西欧市民意識の形成』春秋社，昭和24年5月15日
『西洋経済史』新紀元社，昭和25年7月5日
『西洋中世世界の成立』岩波書店，昭和25年9月25日
『ゲルマン民族の国家と経済』勁草書房，昭和26年5月1日
『独逸中世史の研究』（簡約版）勁草書房，昭和26年10月1日
『歴史学』新紀元社，昭和27年3月15日
『都市——その根柢にあるもの——』如水書房，昭和27年12月20日
『歴史学入門』河出書房，昭和30年3月25日
『西洋経済史上巻』（宮下孝吉・高村象平氏と共著）有斐閣，昭和30年5月30日
『西洋経済史概論』春秋社，昭和30年12月25日
『都市』弘文堂，昭和32年10月30日
『ヨーロッパの横顔』平凡社，昭和32年10月30日
増訂版『西欧市民意識の形成』春秋社，昭和33年12月25日
『歴史学入門』河出書房新社，昭和34年3月25日
『西洋封建社会成立期の研究』岩波書店，昭和34年5月28日
改訂版『都市』弘文堂，昭和35年5月15日
『東と西』春秋社，昭和39年10月31日
増補『西洋経済史概論』春秋社，昭和41年3月10日
『歴史学概論』廣文社，昭和41年4月10日
『大学でいかに学ぶか』講談社，昭和41年5月16日
『ヨーロッパとは何か』岩波書店，昭和42年7月20日
『歴史する心』創文社，昭和42年10月15日
『都市』筑摩書房，昭和43年4月30日

『経済学へのすすめ』(荒憲治郎・山田勇・都留重人・宮沢健一氏と共著)講談社,

昭和43年10月16日

増補版『ゲルマン民族の国家と経済』勁草書房, 昭和44年12月15日

増補版『西欧市民意識の形成』春秋社, 昭和44年12月20日

『随想全集第5巻』(貝塚茂樹・柳田国男氏と共著)小学館, 昭和45年2月5日

『歴史と社会』弘文堂書房, 昭和46年5月30日

新版『西洋経済史概論』春秋社, 昭和46年5月31日

『西洋中世社会史研究』岩波書店, 昭和49年8月28日

『近代の成立と中世』(山内恭彦・榎山欽四郎・栗田直躬・鈴木成高・堀米庸三・
藤田健治・木村尚三郎氏と共著)二玄社, 昭和50年3月31日

『歴史の破綻=文化・経済・国家』(鈴木成高・小林昇・榎山欽四郎・栗田直躬
氏と共著)二玄社, 昭和50年7月25日

『ヨーロッパの都市と生活』筑摩書房, 昭和50年10月20日

II. 論文・評論(学界展望・文献解説・追憶と随想などを含む)

富山売薬業史研究——其起源並に薩摩組及び越後組の旅先活動——(東京
商科大学卒業論文) 昭和7年

独逸ハンザ都市リュエベックの成立について 『東京商科大学研究年報
経済学研究』4, 昭和10年11月

中世北欧商業の展開(1), (2・完) 『社会経済史学』第7巻第6号, 第
7号, 昭和12年9月, 10月

「札差事略」のこと 『一橋新聞』昭和12年10月25日

ハンザ同盟の成立 『一橋論叢』第1巻第5号, 昭和13年5月

都市経済を繞る最近史学界の動向 『一橋論叢』第2巻第6号, 昭和13年
12月

独逸皇帝政策文献抄(特殊文献目録) 『一橋論叢』第2巻第6号, 昭和13年
12月

中世都市経済機構に関する新文献(特殊文献目録) 『一橋論叢』第3巻第2
号, 昭和14年2月

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

独逸都市法形成の社会史的基礎 『東京商科大学研究年報 法学研究』4,
昭和14年2月

中世東独逸植民運動の政治的性格 『一橋論叢』第4巻第3号, 昭和14年
9月

古ゲルマン文化連続性の問題 『社会経済史学』第9巻第7号, 昭和14年
10月

学界展望 経済史 『一橋新聞』昭和14年11月25日

フランク王国の商業交易 『一橋論叢』第5巻第5号, 昭和15年5月

上田貞次郎博士を憶ふ(金子鷹之助氏と共同執筆) 『社会経済史学』第10巻
第5号, 昭和15年8月

ドーブシュ教授の生誕70年記念 『一橋論叢』第6巻第4号, 昭和15年10
月

独逸史学界近況 『一橋新聞』昭和15年10月25日

中世都市 『社会経済史学』第10巻第11・12号, 昭和16年3月(後に社会経
済史学会編『社会経済史学の発達』岩波書店, 昭和19年5月)

企業家的精神 『一橋新聞』昭和16年5月25日

欧羅巴政治の理念と現実 『一橋専門部時報』昭和16年7月1日

中世諸民族文学への関心 『一橋新聞予科版』昭和16年7月10日

ゲルマン都市の先駆的諸形態 『一橋論叢』第8巻第2号, 昭和16年8月

学界展望 歴史学 『一橋新聞』昭和17年1月1日

独逸皇帝政策論争の一展開 『一橋論叢』第9巻第3号, 昭和17年3月

商人ギルドと都市領主 『社会経済史学』第11巻第11・12号, 昭和17年3
月

歴史的國家の本質——20世紀史学の根本問題—— 『一橋新聞』昭和18年
1月1日

中世に於ける独逸民族の東方発展 『日独文化』第4巻第2・3合併号,
昭和18年12月

9世紀に於けるフランク商業 『社会経済史学』第13巻第11・12号, 昭和
19年3月

都市及びギルド 『世界史講座』第7巻, 弘文堂, 昭和19年11月

ドープシュの史観と「発展」の問題 『歴史評論』創刊号, 昭和21年10月
欧羅巴世界成立史観の諸類型 『思想問題研究』第1巻第5号, 昭和21年10月

移動期東ゴート族の王権伸長——国家起源論の一端として—— 『一橋論叢』第17巻第1・2号, 昭和22年2月

古ゲルマン民族の国家形態 『歴史学研究』第127号, 昭和22年5月

文化の没落と再興 『新星』第1巻第5号, 昭和23年1月

西欧市民社会の成立(上), (下) 『読書新聞』昭和23年5月12日, 19日

転換期の歴史把握のために 『季刊理論』第3・4号, 昭和23年5月
封建制起源論の構造 『一橋新聞』昭和23年7月15日

古ゲルマン民族の経済生活——タキトゥス『ゲルマニア』による——
小野武夫博士還暦記念論文集『西洋農業経済史研究』日本評論社, 昭和23年9月

中世経済史家としてのマックス・ウェーバー——都市研究を中心に——
『社会科学研究1』鎌倉文庫, 昭和23年12月

ゴート戦役とイタリア経済社会の変質 『一橋論叢』第20巻第5・6号,
昭和23年12月

ゲルマン部族国家の一性格——東ゴート族のイタリア支配について——
『共同研究 古代国家』啓示社, 昭和24年2月

市民意識の問題 『教育と社会』第4巻第5号, 昭和24年5月

西洋中世経済史(文献解説), ドイツ近世経済史(文献解説) 一橋新聞部編
『経済学研究の栞 西洋経済史篇』春秋社, 昭和24年12月

世界史的考察の課題 『歴史評論』復刊第1号, 昭和25年1月

封建国家への一視角——堀米氏の論稿に寄せて—— 『社会構成史体系月報』第6・7号, 昭和25年5月

アルフォンス・ドープシュ 『社会経済史学』第16巻第2号, 昭和25年6月

ギールケとメンガー 『一橋大学経済学講座月報』第2号, 昭和25年7月

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

- 中世的国家形態の変遷 『一橋論叢』第24巻第3号, 昭和25年9月
- 杉村先生を憶う 杉村敦子編『杉村廣蔵博士を憶う』昭和25年11月
- 中世ドイツ国家の性格 杉村記念会編杉村博士記念論文集『経済哲学の諸問題』新紀元社, 昭和25年12月
- 農奴解放 『社会科学講座』第4巻, 弘文堂, 昭和26年1月
- 中世初期ザクセンの等族制について 『史学雑誌』第60編第1号, 昭和26年1月
- 身分と階級 『九州大学新聞』昭和26年1月20日
- 石母田正氏の論文「封建国家に関する理論的諸問題」を読み 『歴史学研究月報』昭和26年2月号
- 近代市民社会成立の基礎 『季刊理論』第16号, 昭和26年5月
- 封建制の崩壊をめぐる理論と史実 『思想』第325号, 昭和26年7月
- ドイツ中世都市の起源について 『一橋論叢』第26巻第5号, 昭和26年11月
- 12世紀フランドル地方の経済変革 『社会経済史学』第17巻第5号, 昭和26年11月
- 現代歴史学の課題(1), (2), (3) 『一橋新聞』昭和27年1月30日, 2月10日, 2月25日
- 都市自治の一つの問題点 『都市問題』第43巻第2号, 昭和27年4月
- Two Types of Medieval Cities in Western Europe. *The Annals of the Hitotsubashi Academy*, Vol. II, No. 2, April 1952
- 戦後ミュンヘンを中心とする歴史家の活動 『社会経済史学』第18巻第1号, 昭和27年4月
- イタリア中世都市の起源について 『一橋論叢』第28巻第4号, 昭和27年10月
- 古代より中世への転換の問題 『経済研究』第3巻第4号, 昭和27年10月
- 古代末期のガリア社会 『西洋史学』第15号, 昭和27年10月
- ゲルマン民族移動史研究の新動向 『国学院政経論叢』第1巻第2号, 昭和27年11月

戦後におけるドイツ中世史学界の動向 『歴史学研究』第162号, 昭和28年3月

ドイツ経済史についての二つの近著 『経済学新大系月報』IX, 昭和28年8月

現代歴史学の課題 増田四郎編『現代歴史学の新動向』昭和28年8月
ドイツ国家の成立をめぐる諸問題 増田四郎編『現代歴史学の新動向』昭和28年8月

アンリ・ピレンヌの業績について 『一橋論叢』第30巻第5号, 昭和28年11月

騎兵制と封建制起源の問題 『社会経済史学』第19巻第4・5号, 昭和28年12月

中世都市の成立について 『市政』第3巻第4号, 昭和29年4月
欧米史学界の近況——偉大な歴史家達への追憶—— 『一橋論叢』第32巻第2号, 昭和29年8月

カロリング王朝期フランク王国の経済環境 『一橋論叢』第32巻第4号, 昭和29年10月

中世村落研究の問題点 『国学院政経論叢』第3巻第3号, 昭和29年12月
西ヨーロッパ古代末期・中世前期経済史の研究状況 『社会経済史学』第20巻第4・5・6号, 昭和30年3月

ドイツ歴史学界の再出発 『一橋論叢』第33巻第5号, 昭和30年5月
『経済学教科書』第1分冊の第1篇, 即ち歴史に関する部分についての感想 『経済研究』第6巻第3号, 昭和30年7月

ドイツ中世史研究における都市と農村 『一橋大学創立80周年記念論集』上巻, 勁草書房, 昭和30年9月

歴史学(一橋学問の伝統と反省) 『一橋論叢』第34巻第4号, 昭和30年10月
歴史学について 『社会科学を学ぶ者へ』同文館, 昭和30年10月

文化史としての社会経済史——『西洋経済史概論』ができるまで——
『現代経済学全集月報』3, 昭和30年12月

資本主義以前の生産方法 社会思想研究会編『『経済学教科書』の問題点』

- 上, 中央公論社, 昭和31年3月
- ドイツ国家成立期における種族と王権 野村兼太郎博士還暦記念論文集
『封建制と資本制』有斐閣, 昭和31年3月
- 歴史学 『社会科学入門』みすず書房, 昭和31年6月
- ミュンヘン便り——ミュンヘン大学の現状—— 『一橋論叢』第36巻第3号, 昭和31年9月
- 西史史学界の一動向——バイエルンを中心に—— 『経済研究』第7巻第4号, 昭和31年10月
- ヨーロッパ都市の伝統 『歴史教育』昭和32年7月号
- 中世初期における西南ドイツの村落形態 『一橋論叢』第38巻第4号, 昭和32年10月
- 中世初期シュワーベンの貴族支配——村落団体と貴族支配についての一考察—— 『一橋大学研究年報 経済学研究』2, 昭和33年3月
- ドイツの歴史その他 『世界文化地理大系』17, 平凡社, 昭和33年4月
- 中世初期村落史研究の問題点——ドイツ史学界を中心に—— 『一橋論叢』第40巻第4号, 昭和33年10月
- 南欧雑感 『一橋カトリック研究』昭和34年3月20日
- 史学の成立 金子武蔵・大塚久雄共編 『講座近代思想史』第Ⅳ巻, 弘文堂, 昭和34年3月
- 日本文化の世界史的位置づけ 『理想』昭和34年4月号
- マックス・ウェーバー 『一橋論叢』第41巻第4号, 昭和34年4月
- ヨーロッパにおける中世都市研究の動向 地方史研究協議会編『封建都市の諸問題 日本の町Ⅱ』雄山閣, 昭和34年6月
- 時代の概観, ゲルマン民族の生活, 商業の復活, ゆらぐ封建社会 増田四郎他編『図説世界文化史大系』第7巻, 昭和34年7月
- フランク王国史研究の問題点——メロヴィング王朝期を中心に—— 『一橋論叢』第42巻第4号, 昭和34年10月
- メロヴィング王朝における王権の性格 『一橋論叢』第42巻第6号, 昭和34年12月

- 中世前期の概説 増田四郎他編『社会経済史大系』Ⅱ, 昭和35年1月
- 古典古代の概説 増田四郎他編『社会経済史大系』Ⅰ, 昭和35年5月
- ヨーロッパ初期中世における土地支配と農民 『歴史学研究』第242号,
昭和35年6月
- マックス・ウェーバー, ドプシュ, ピレンヌ 増田四郎他編『社会経済史
大系』Ⅸ, 昭和35年8月
- ピレンヌ著, 中村宏・佐々木克巳訳『ヨーロッパ世界の誕生』(創文社, 昭
和35年8月31日)の監修者序文
- 初期中世の村落秩序とその変貌——特にシュワーベンの事例を中心に——
『一橋論叢』第44巻第6号, 昭和35年12月
- ゲルマン民族の社会と経済, 民族大移動と部族国家, フランク王国の成立
と発展 『世界の歴史』5, 筑摩書房, 昭和36年2月
- フランク王国のシュワーベン統治について 『社会経済史学』第26巻第4
・5号, 昭和36年3月
- 地域史研究の効用と限界 『一橋論叢』第47巻第3号, 昭和37年3月
- フランク時代における都市および農村の変容 『一橋大学研究年報 経済
学研究』6, 昭和37年3月
- 古ゲルマンの集落形態 『古代史講座』6, 学生社, 昭和37年12月
- カール大王のザクセン戦役について 『一橋論叢』第49巻第3号, 昭和38
年3月
- いわゆる原初村落の集村化について 久保正幡編『中世の自由と国家』上
巻, 創文社, 昭和38年3月
- 歴史と現実——日本における西洋史研究の問題状況—— 『思想』第468
号, 昭和38年6月
- Some Problems in the Study of Occidental History in Japan. *Hitotsu-
bashi Journal of Arts and Sciences*, Vol. 4, No. 1, March 1964
- ハインリッヒ・ダンネンバウアー 『一橋論叢』第51巻第4号, 昭和39年
4月
- ヨーロッパ中世社会の発展様相 『国民経済雑誌』第110巻第3号, 昭和

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

39年9月

平沼先生の印象 『平沼淑郎博士生誕百年記念誌』早稲田大学第一・第二
商学部, 昭和39年11月

ヨーロッパにおける歴史研究の課題と方法 『思想』第489号, 昭和40年
3月

ヨーロッパ封建社会の諸問題 『社会経済史学』第30巻第3・4号, 昭和
40年3月

吹田先生を偲ぶ 『回想の吹田順助先生』同学社, 昭和40年7月

創立90周年記念号に寄せて 『一橋論叢』第54巻第3号, 昭和40年9月
リュベックを想う 『国民百科』昭和40年12月号

ヨーロッパ中世の経済(1)―(10) 『学燈』昭和41年1月号―10月号

私の研究のねらい 『神戸新聞』昭和41年2月28日

雑学多読のすすめ 『朝日新聞』昭和41年3月24日夕刊

日本の町とヨーロッパの町 『都政』6号, 昭和41年6月

三浦新七と『東西文明論考』 『中央公論』昭和42年10月号

明治百年の反省 『黎明叢書』第31号, 昭和43年3月

ヨーロッパ史における12世紀 『一橋論叢』第59巻第3号, 昭和43年3月
経済史学の性格とその方法 増田四郎他著『経済学へのすすめ』昭和43年
10月

笠さんを憶う 江幡清編『回想笠信太郎』笠信太郎追悼集刊行会, 昭和43
年11月

ゲルマン民族の大移動 『世界歴史シリーズ』10『法王の時代』世界文化
社, 昭和43年12月

地域史研究の方法と課題 『日本の将来』講座, 第8巻『新しい歴史像』
潮出版社, 昭和44年9月

古ゲルマン社会研究の問題点 『社会経済史学』第35巻第5・6号, 昭和
45年3月

世界的にみたヨーロッパと日本 増田四郎編『西洋と日本』昭和45年10
月

- 大学セミナーハウスの現状 『国立大学協会会報』昭和45年12月
- ドイツ村落史研究におけるヴィクトル・エルンスト 『東京経済大学創立
70周年記念論文集』昭和46年3月
- 社会経済史における16, 17世紀 『社会経済史学』第37巻第1号, 昭和46
年7月
- ヨーロッパ史に学ぶもの 『経済倶楽部講演』東洋経済新報社, 昭和46年
8月
- 都市度の指標 『都市問題』第62巻第9号, 昭和46年9月
- 国家についての反省 『総合教育技術』昭和46年10月号
- 経済史学の発達と最近の動向, ヨーロッパ経済史, 土地制度・農業 増田
一郎他編『経済学ガイドブック』昭和46年10月
- 望ましい日本の文化指標 『学校経営』第16巻第11号, 昭和46年11月
- 幸田成友博士と歴史学 『三田評論』710号, 昭和46年12月
- 歴史としての中世都市 (I) — (XXXIV) 『創文』104号—137号, 昭和47年
1月—昭和50年3月
- 教師・ゼミ・研究 『日本経済新聞』昭和47年6月12日
- 新しい歴史理論の模索 『日本経済新聞』昭和47年10月6日
- 狭く住み広く考える 『信濃毎日新聞』昭和48年1月1日
- 都市づくりと道路の役割 『高速道路と自動車』昭和48年1月号
- 都市問題の文明史的背景 『経済評論』昭和48年3月号
- 一歴史家の願い 『自由』昭和48年4月号
- 私の好きな言葉 『ちくま』昭和48年4月号
- 都市自治の原点について 『岩波講座現代都市政策月報』昭和48年6月
- 中山先生と私 『中山伊知郎著作集月報』昭和48年6月
- 世代の断絶と学問 『一橋学友』昭和48年7月
- ヨーロッパの最近の動向とその歴史的背景 『黎明叢書』第101号, 昭和
48年10月
- 社会史からみたヨーロッパの12世紀 『社会経済史学』第39巻第3号, 昭
和48年10月

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

歴史家と歴史学者 『歴史と人物』昭和48年10月号

社会生活と学問 『東京経済大学報』第6巻第4号, 昭和48年10月

私の学問遍歴 『書窓』第15号, 昭和48年12月

大学での学問 『一橋学友』第6号, 昭和49年6月

クーリッセル著, 伊藤栄・諸田実共訳『ヨーロッパ中世経済史』(東洋経済新報社, 昭和49年7月)の監修者序

一歴史研究者の切なる願い 『創文』131号, 昭和49年8月

新コミュニズム 『国際事評』昭和49年9月

山口茂先生を憶う 『如水会会報』昭和49年10月号

社会史への道 『経済セミナー』昭和49年12月号

歴史的国家の理念と現実 『思想』第607号, 昭和50年1月

大学でどう学ぶか 『経済セミナー』昭和50年4月号

歴史から見た国家のあり方 『黎明叢書』第122号, 昭和50年7月

左右田博士の蔵書と全集 『左右田博士の回想』創文社, 昭和50年10月

上田(貞)先生と実学の尊さ 『上田貞次郎全集の葉』第5号, 昭和51年1月

世界史的なものの見方 『ガッケン・エリア月報』第7号, 昭和51年3月
中世社会経済史の諸問題 社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 昭和51年3月

幸田成友 永原・鹿野共編『日本の歴史家』日本評論社, 昭和51年5月
中世農村の風土と生活 (I)―(XXXX) 『創文』150号―189号, 昭和51年5月―昭和54年9月

比較社会史への道 『黎明叢書』第138号, 昭和51年12月

中世都市研究における私の問題点 『比較都市史研究会報』第3巻第3号, 昭和52年3月

地域主義の発想について 『経済セミナー』昭和52年5月号

私にとっての地域主義 『地域開発』昭和52年6月号

ヨーロッパ中世史への新視角 『世界の歴史(講談社)月報』8, 昭和52年7月

- 地域主義の思想について 『黎明叢書』第148号, 昭和52年10月
地域主義の展開のために 『公明』昭和52年10月号
世界史からみた日本の社会 『如水会会報』昭和52年12月号
地域主義の展開 玉野井・清成・中村共編『地域主義』学陽書房, 昭和53年3月
「ヨーロッパ近代」を超える道 『公明』昭和53年7月号
地域主義の考え方について 『市政』昭和53年10月号
思想の言葉 『思想』昭和54年1月号
ヨーロッパの都市と市民意識 『市政』昭和54年4月号
地域主義の源流 『農業構造改善』昭和54年5月号
社会史への道(Ⅰ)ー 『本と批評』昭和54年8月号より連載中
都市自治の原点 『市政』昭和54年10月号

Ⅲ. 書評・翻訳

- 遠藤正男著『商業資本発達史論』『一橋新聞』昭和11年7月13日
川上多助著『日本歴史概説』『一橋新聞』昭和12年4月26日
ケチケ, エーベルト共著『東独逸植民史』『一橋論叢』第1巻第2号, 昭和13年2月
大塚久雄著『株式会社発生史論』『一橋論叢』第2巻第2号, 昭和13年8月
宮本又次著『株仲間の研究』『一橋論叢』第2巻第4号, 昭和13年10月
吹田順助著『近代独逸思潮史』『一橋論叢』第3巻第5号, 昭和14年5月
小林太市郎著『支那思想とフランス』『一橋論叢』第4巻第4号, 昭和14年10月
鶴見左吉雄著『日本貿易史綱』『社会経済史学』第9巻第9号, 昭和14年12月
エリッヒ・カイザー著『独逸人口史』『一橋論叢』第5巻第2号, 昭和15年2月
野村兼太郎著『一般経済史概論』『三田新聞』昭和15年6月10日

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

- マキャヴェルリ『ローマ史論』の邦訳 『一橋新聞』昭和15年10月10日
- カール・ビューラー『ゲルマン的同体性』『一橋論叢』第8巻第3号，昭和16年9月
- ルヨ・ブレンターノ『近世資本主義の起源』『一橋新聞』昭和16年11月10日
- オストロゴルスキー『ビザンツ史の諸期』『社会経済史学』第12巻第5号，昭和17年8月
- ホルガー・アルプマン著『瑞典とカロリナー王国』『一橋論叢』第12巻第5号，昭和18年11月
- 松田智雄著『近代の史的構造論』『読書新聞』昭和23年7月21日
- 鈴木成高著『封建社会の研究』『社会経済史学』第15巻第1号，昭和23年10月
- 村川堅太郎著『西洋史提要』『読書新聞』昭和25年1月18日
- 高村象平著『一般経済史（古代中世篇）』『社会経済史学』第16巻第1号，昭和25年4月
- 堀米庸三著『中世国家の構造』『一橋論叢』第23巻第6号，昭和25年6月
- 鈴木圭介著『アメリカ経済史研究序説』『経済研究』第1巻第3号，昭和25年7月
- 笠信太郎著『ものの見方について』『一橋新聞』昭和25年10月1日
- 高橋幸八郎著『市民革命の構造』『一橋新聞』昭和26年2月20日
- ジョゼフ・カルメット著，川俣晃自訳『ジャンヌ・ダルク』『読売新聞』昭和26年6月11日朝刊
- 山中謙二著『西洋中世史』 Books, No. 25. 昭和27年5月
- 豊田武著『日本の封建都市』『図書』昭和27年7月号
- 羽原又吉著『日本漁業経済史』上巻 『一橋新聞』昭和27年10月30日
- 矢口孝次郎著『資本主義成立期の研究』『一橋新聞』昭和28年1月20日
- 林健太郎著『史学概論』『読書新聞』昭和28年7月6日
- 宮下孝吉著『ヨーロッパにおける都市の成立』『読書新聞』昭和28年8月17日

宮下孝吉著『ヨーロッパにおける都市の成立』『社会経済史学』第19巻第
2・3号, 昭和28年10月

民科歴史部会著『世界歴史講座』『読書新聞』昭和29年4月5日

今井登志喜監修『世界歴史事典』『東京新聞』昭和29年5月28日

M・ドップ著『資本主義発展の研究』『一橋新聞』昭和29年11月10日

青木英夫・飯塚信雄著『西洋服装文化史』『図書新聞』昭和30年2月26日
ピレンス著, 大塚久雄・中木康夫訳『資本主義発達諸段階』『図書新聞』昭和31年1月14日

アンリ・ピレンス著『中世ヨーロッパ社会経済史』(小松芳喬・高橋幸八郎・
高村象平・松田智雄・五島茂氏と共訳) 一條書店, 昭和31年5月15日

宇尾野久『ヨーロッパ中世社会経済史論攷』『図書新聞』昭和32年11月23
日

ウィレー著, 深瀬基寛訳『17世紀の思想的風土』『出版ニュース』昭和33
年6月中旬号

堀米庸三著『西洋中世世界の崩壊』『図書』昭和33年7月号

堀米庸三著『西洋中世世界の崩壊』『読書新聞』昭和33年7月28日

コスミンスキー著『世界中世史研究』第1巻 『読書新聞』昭和33年10月
27日

アーノルド・J・トインビー著, 長谷川松治訳『続歴史の研究』『週刊読
書人』昭和34年1月12日

竹山道雄著『続ヨーロッパの旅』『週刊読書人』昭和34年8月8日

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』I 『読書新聞』
昭和35年6月13日

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』I, II, III, IV
『一橋新聞』昭和35年6月20日, 9月10日, 10月10日, 11月30日

中木康夫著『ロスチャイルド家』, 山上正太郎著『ウィンストン・チャー
チル』『図書新聞』昭和35年8月20日

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座』『朝日ジャーナ
ル』昭和35年12月11日

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

宇尾野久著『西洋中世初期社会経済史研究』『図書新聞』昭和36年4月15日

下村寅太郎著『ヨーロッパ遍歴』『週刊読書人』昭和36年8月26日

大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編著『西洋経済史講座』Ⅰ—Ⅴ『経済研究』第13巻第3号，昭和37年7月

鯖田豊之著『封建支配の成立と村落共同体』『一橋論叢』第48巻第3号，昭和37年9月

水田洋著『霧の国 太陽の国』『一橋新聞』昭和38年6月15日

テオドール・マイヤー著『中世史研究論集』『一橋論叢』第50巻第2号，昭和38年8月

クルト・ボェナー著『トリアー地方におけるフランク時代の遺跡・遺物』『社会経済史学』第28巻第6号，昭和38年8月

千種義人著『欧米の都市と大学』，同『ヨーロッパ見物』『週刊読書人』昭和38年9月9日

土方定一著『ブリュゲル』『朝日ジャーナル』昭和38年9月9日号

土方定一著『画家と画商と蒐集家』『東京新聞』昭和39年1月29日夕刊

弓削達著『ローマ帝国の国家と社会』『図書』昭和39年8月号

飯塚浩二著『東洋への視角と西洋への視角』『週刊読書人』昭和40年1月1日

M・ウェーバー著，世良晃志郎訳『都市の類型学』『週刊読書人』昭和40年3月22日

堀米庸三編『現代歴史学入門』『週刊読書人』昭和40年5月31日

高村象平著『私学に生きる』『塾』1972年第3号，昭和47年3月

林毅著『ドイツ中世都市法の研究』『社会経済史学』第38巻第5号，昭和48年1月

堀米庸三編『ゴシック美術』『週刊読書人』昭和50年1月6日

三枝充恵・今井淳編『東洋文化と日本』『セミナーハウス・ニュース』第42号，昭和51年5月

渡辺金一著『ビザンツ社会経済史研究』『社会経済史学』第42巻第2号，

昭和51年10月

田中美知太郎著『巻頭随筆』『日本経済新聞』昭和53年 5 月21日

岩村忍著『文明の経済構造』『朝日ジャーナル』昭和53年11月 3 日号

河野健二著『現代社会』『日本経済新聞』昭和54年 5 月 6 日

Ⅳ. 事典項目

『世界歴史事典』（平凡社，昭和26年4月より刊行開始）：カール大帝，カロリング朝，キウィタス，宮宰，サン・ガレン修道院，サン・ジェルマン修道院，史学史——西洋〔中世〕，都市同盟，都市法，ピレンヌ，フランク王国，フルダ修道院，マイツェン，マウラー，リュベック，ロムルス・アウグストゥルスほか

大阪市立大学経済研究所編『経済学小辞典』（岩波書店，昭和26年6月）：ギルド，中世商業，中世都市，ハンザ同盟

『世界大百科事典』（平凡社，昭和30年3月より刊行開始）：ヴェネツィア，ギーゼブレヒト，宮宰，都市〔歴史〕，都市貴族，都市同盟，ハンザ同盟，フンデルトシャフト，マウラー，三浦新七，民族大移動，リュベックほか

『経済学大辞典』Ⅲ（東洋経済新報社，昭和30年12月）：封建制，身分

『体系経済学小辞典』（東洋経済新報社，昭和31年9月）：「社会経済形態」のうち西ヨーロッパ，東ヨーロッパ，アメリカ，並びにその他。「革命および社会運動」のうち革命

『世界名著大辞典』（平凡社，昭和35年2月より刊行開始）：カロリング朝時代の経済発展，近代経済史，経済史の諸問題，経済社会史，ゲルマン古代学事典，国民経済の成立，世界史における自然経済と貨幣経済，中世一般経済史，中世および近世一般経済史，中世社会経済史，中世初期の農業制度，中世世界の基礎，中世ドイツ経済史，中世ドイツの経済生活，中世都市，中世末期における廃村，中世ヨーロッパ社会経済史，ドイツ皇帝時代における支配と農民，独逸中世史研究，独逸中世の社会と経済，封建社会，マホメットとシャルルマーニュ，ヨーロッパの経済的発展，

増田四郎先生略年譜ならびに著作目録抄

ヨーロッパ文化発展の経済的・社会的基礎

『体系経済学辞典』（東洋経済新報社，昭和40年2月）：経済発展段階説，古ゲルマンの社会と経済，中世の農業と農村社会，中世の商工業と都市，絶対主義，重商主義

大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』（岩波書店，昭和40年9月）：ギルド，中世商業，ドーブシュ，ランプレヒト

『大日本百科事典』第16巻（小学館，昭和46年3月）：封建制度

V. 編書

『現代歴史学の新動向』如水書房，昭和28年8月30日

『体系経済学小辞典』（高橋泰蔵氏と共編）東洋経済新報社，昭和31年9月21日

『図説世界文化史大系』第7巻（柳宗玄氏と共編）角川書店，昭和34年7月30日

『社会経済史大系』全10巻（高村象平・小松芳喬・矢口孝次郎氏と共編）弘文堂，昭和34年12月—昭和36年9月

『体系経済学辞典』（高橋泰蔵氏と共編）東洋経済新報社，昭和40年2月10日

『西洋と日本』中央公論社，昭和45年10月25日

『経済学ガイドブック』（馬場啓之助・都留重人・小泉明氏と共編）東洋経済新報社，昭和46年10月11日

改訂版『体系経済学辞典』（高橋泰蔵氏と共編）東洋経済新報社，昭和50年9月25日